



平成 26 年 12 月 22 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 2 6 3 - 9 2 0 0

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 26 年 2 月 14 日に公表した平成 26 年 12 月期（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）の連結及び個別の通期業績予想に関し、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 26 年 12 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,186	△3,210	△3,424	△2,436	△289 11
今回修正予想 (B)	1,105	△3,902	△4,213	△3,925	△448 26
増減額 (B-A)	△1,080	△692	△790	△1,489	—
増減率 (%)	△49.4%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期)	93	△4,421	△4,147	△3,717	△491 59

2. 平成 26 年 12 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,186	△1,610	△1,641	△194 76
今回修正予想 (B)	1,105	△2,794	△2,797	△319 40
増減額 (B-A)	△1,080	△1,184	△1,155	—
増減率 (%)	△49.4%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期)	92	△3,179	△3,207	△424 14

3. 業績予想の修正理由

(1) 連結業績予想

平成 26 年 12 月期の売上高の減収要因は、これまで中国を中心に組換えインフルエンザ HA ワクチンのライセンス供与に係る提携を実現すべく現地企業と交渉を重ねてまいりましたが、中国での医薬品輸入に係る現地規制等の観点から当社が想定するスキームでの提携合意に至らず、更に検討を重ねることとした結果、当期に見込んでいた中国市場における提携一時金収受がなくなったことによるものであります。なお、将来の成長戦略を実現すべく中国提携交渉と並行して活動を進めた結果、本日付にて公表した「米国にて Protein Sciences Corporation が販売している季節性組換えインフルエンザ HA ワクチン Flublok® の岐阜工場からの原薬供給可能性検討に関する基本合意のお知らせ」に記載の通り、当社、当社が開発中の組換えインフルエンザ HA ワクチ

ンの技術導入元である Protein Sciences Corporation（本社：米国コネチカット州、President & CEO: マノン・コックス）及び原薬製造事業パートナーである株式会社 IHI（本社：東京都江東区、代表取締役社長 齋藤保）と、岐阜工場の国内必要供給量を上回る生産余力を活用した米国インフルエンザワクチン市場への原薬供給の可能性検討を通じて、海外における収益拡大を目指してまいります。

また、バイオ医薬品受託製造事業においては、引き続き複数の案件について受託しているものの、受託案件の検収が平成 27 年 12 月期以降となるため、受託収益の計上時期を見直したことによるものであります。

一方、費用面におきましては、試験研究費について、当社子会社である株式会社 UNIGEN の岐阜工場における、季節性組換えインフルエンザ HA ワクチン（以下「UMN-0502」）の承認申請に向けた各種データ取得を目的とする Process Validation（PV）に係る原材料・資材費の減少、設備関連費目に関して商用生産を見据えて一部を仕掛計上することを考慮した結果、当初想定より 240 百万円程度の費用減少が見込まれるものの、減収の影響を吸収しきれない結果、営業損失、経常損失が前回予想と比べ拡大する見込みであります。また、当期純損失におきましては、前回予想時に、株式会社 UNIGEN に対して、株式会社 UNIGEN の株主である当社及び株式会社 IHI より増資を行うことを前提として少数株主損失の計上を想定しておりましたが、株式会社 IHI との協議の結果、本日公表の「当社子会社におけるシンジケートローン契約の変更契約締結に関するお知らせ」に記載の通り、増資以外の手法にて株式会社 UNIGEN における財務基盤確保を実施したことにより、少数株主損失の計上の一部にとどまった結果、営業損失、経常損失に比べ損失が拡大する見込みであります。

（2）個別業績予想

平成 26 年 12 月期の売上高の減収要因は、連結業績予想に記載のとおりであります。

上記売上高の減収要因に加え、試験研究費において、UMN-0502 承認申請後の照会事項対応に伴う消耗品費及び外注費が増加、またノロウイルス VLP+ロタウイルス VP6 混合ワクチン（UMN-2003）の開発に関する外注費が増加した結果、経常損失及び当期純損失が前回予想と比べ拡大する見込みであります。

当社グループでは、ステークホルダーの期待に応えるべく、東アジア地域への展開を積極的に進めてまいりましたが、現時点における提携は、日東製薬株式会社との韓国における共同開発及び独占的販売のライセンス契約の締結に留まっております。当社グループとしては、今後も東アジア地域展開の可能性を探っていくものの、今後の企業価値向上シナリオの実現に向け、Protein Sciences Corporation 及び株式会社 IHI と共同で、岐阜工場の国内必要供給量を上回る生産余力を活用した米国インフルエンザワクチン市場への原薬供給に活用することにつき検討を進め、中長期における企業価値向上の責務を果たしてまいります。

なお、米国インフルエンザワクチン市場の詳細等につきましては、本日公表の「米国にて Protein Sciences Corporation が販売している季節性組換えインフルエンザ HA ワクチン Flublok® の岐阜工場からの原薬供給可能性検討に関する基本合意のお知らせ」をご参照ください。

（注）上記業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上